

自治労群馬県本部

第96回定期大会 2025 運動方針ほか全5議案可決 /



▲大会冒頭、あいさつをする青木中央執行委員長



▲第96回定期大会の様子。委任状含め138名の代議員が出席した



▲決算の場、県本部の支出方針について質問を行う小林委員長

9月20日(金)～21日(土)、「ホテル木暮」(渋川市)にて「自治労群馬県本部第96回定期大会」が開催された。

県内の単組から委任状を含めて138名の代議員が出席した。太田市職労からは、県本部執行部の山本特別執行委員、会計監査委員の松木副執行委員長、代議員の小林執行委員長をはじめ、計10名が出席した。

定期大会では、今期の活動や決算に関する報告が行われ、2025年度の運動方針や当面の闘争方針など計5本の議案が提出された。単組からの発言や質疑により県本部方針が補強され、すべての報告および議案が可決・承認された。

一般経過報告では、県本部からの決算報告に対して、太田市職労から財政運営に関する質疑を行った。特に、支出の中でも大きな割合を占める人件費に焦点を当て、その適正化が重要であるとの立場から財政方針に関する質疑を行い、これまで不透明であった今後の財政方針について県本部の考えを引き出した。また、大会2日目には2025年度一般会計予算などの議案に対しても質疑を実施。労働組合の持続可能性に焦点を当てた質問を行ったが、納得のいく回答は得られなかった。

〈県本部提出議案の可決・承認結果〉

第1号議案	2025年度運動方針	可決
第2号議案	当面の闘争方針	可決
第3号議案	2025年度一般会計・特別会計予算	可決
第4号議案	前橋市議会議員選挙における県本部政策協力議員の承認について	承認
第5号議案	特別中央執行委員の選任について	承認

〈太田市職労から県本部への質疑〉

- Q1. 県本部の組織経営として適切な人件費率はどの程度を考えているのか  
A1. 予算の3分の1程度を基本としている
- Q2. 人件費削減のため県本部書記は正規職員ではなくパートタイム職員の配置が適当と捉えているが実施の課題は何か  
A2. 労働運動の経緯や経験を引き継ぐ観点からパートタイム職員の登用は考えていない
- Q3. グループウェア、クラウド型サービスを用いた業務のDX化の方針について  
A3. 今後の検証課題としたい

群馬クレインサンダーズ後援会チケット配布事業 (24-25 シーズン第一弾) について

群馬クレインサンダーズの観戦チケットを無料配布します。今回は10月19日(土)(VS長崎ヴェルカ)のチケットを20枚配布します。抽選制となりますので下記の要件をご確認いただき、締め切りまでに応募頂きますようお願いいたします。今後の試合については後援会用観戦チケットの割り当てがあり次第、機関紙で告知をいたします。

抽選で20枚!

第3節 HOME オプアリ

10.19 SAT 15:05-

対象 組合員 締め切り 2024年10月9日(水) 正午

交付枚数 1人2枚まで 申請方法 掲載のQRコードリンク先のフォームから応募

※賛助会員、公的賛助会員は対象外です。  
※応募締め切り後、抽選を行います。当選者には書記局よりご連絡いたします。

▶ 申込フォームはこちら





機関紙ほか案内文を通じてご協力をいただき実施しました「2024 賃金確定闘争に向けた WEB アンケート」について、集計が完了しましたので一部を抜粋して結果を報告します。 今回のアンケートは 143 名の方にご協力をいただきました。景品当選者には役員が直接お渡しに伺いました。ご協力いただいた皆様、誠にありがとうございました。

## 主な関心事は「時間外勤務の量」と「人事評価制度」

調査の結果、組合員の最大の関心事は「時間外勤務の量」であった。特に 35 歳以下の回答者からは、「課によって時間外勤務の量の差が激しい」という不満が多く寄せられ、業務量の不公平感や時間外勤務削減を求める声が強い。また、人事評価制度に対する不満も顕著であり、「評価が適切に行われていない」「部署や管理職によって評価が異なる」といった意見が多く見受けられた。

### < 調査概要 >

調査方法	Google フォーム (QR コード経由) にて組合員の回答を集計。35 歳以下と 36 歳以上で調査項目を変更して実施。
実施期間	2024 年 7 月 26 日～8 月 23 日
回答総数	143 名 (35 歳以下:77 名、36 歳以上:66 名)

## 「わからない」が目立った人事評価・管理職希望 共通する不透明さ

### 人事評価制度と異動に対する要望 評価制度の不透明さ 顕著

人事評価制度が適切に機能しているかについて、「制度が機能していない」「上司の主観的な評価が行われている」といった否定的な回答が相次いだ。特に注目すべきは、「わからない」という回答が最も多かった点である。これは、職員の評価制度に対する習熟度の低さに加え、評価制度の運用方法や自身の評価の反映についての不透明さが影響していると考えられる。また、人事異動については、「課内での調整が必要」「人材育成を重視した異動を行うべき」という意見が出ている。新たな異動先を係付で決定する取り組みについては、両年齢層ともに「従来通り課付で行うべき」という意見が最多であった。

### 課長（管理職）以上への昇進は 希望の有無が拮抗

課長以上の管理職については、35 歳以下では「希望する」と答えた人が 20 名、「希望しない」が 25 名、「よくわからない」が 30 名であった。36 歳以上の回答者の中では、「希望する」と答えた人は 18 名、「希望しない」は 24 名、「よくわからない」が 22 名となった。課長以上の管理職に対しては、給与アップや責任感のある仕事を希望する一方で、負担が大きくなることや、プライベートへの影響を懸念する意見が多く寄せられた。

全体的に見て、管理職への登用を希望する意見と、希望しない意見が拮抗しており、特に「よくわからない」と答えた組合員も少なくないことが特徴的だ。これは、管理職としての責任や業務負担に対する不安のほか、自身のキャリアパスが描けていない実態が根強くあることを示している。

### 組合の今後の取り組み

市職労は、今回のアンケート結果を踏まえ、時間外勤務の削減、人事評価制度の見直し、職場環境の改善、中途採用者のキャリアパスの支援を重点項目として掲げる。これらの課題に対して、市職労は組合員の声をもとに、より具体的な改善策を提案し、本秋に控える県人事委員会勧告の内容と併せて、当局との交渉に臨む予定である。



立憲民主党

参議院議員(自治労組織内議員)

# 岸まきこ

## 自治労の政策要求を 実現しよう!

声を力に、  
とともに 一歩前へ



岸まきこ 公式サイト  
kishimakiko.com/  
岸まきこ 検索

自治労は、第 27 回参議院選挙の全国比例区に「岸まきこ」現参議院議員の擁立を決定しました。

岸まきこ  
(岸真紀子)  
プロフィール

1976年北海道岩見沢市(旧栗沢町)生まれ。94年旧栗沢町役場入職(現岩見沢市)。2013年から自治労中央執行委員。19年第25回参院選(全国比例区)で初当選。現職に至る。